

## 【今週の注目疾患】

### 《梅毒》

2021年第11週の週報(2021年3月24日発行)において、本年の県内における梅毒報告数が過去の同時期と比べて多くなっていることを特集したが、その後も当該疾患の報告は続いており、2021年第15週には4例の報告があり、2021年(第1週～第15週)の累計は62例となった。本年の梅毒の症例数は依然として過去(2016年以降)の同時期と比べて最も多くなっている(図1)。全国的にも、本年の梅毒報告数は増加傾向が見られており、全国および近隣都県(東京都、埼玉県、神奈川県)の本年の梅毒の報告数は昨年同時期と比べていずれも多くなっていることが認められた(表1)。

【図1】2016年01週～2021年15週までの梅毒の累積報告数の推移

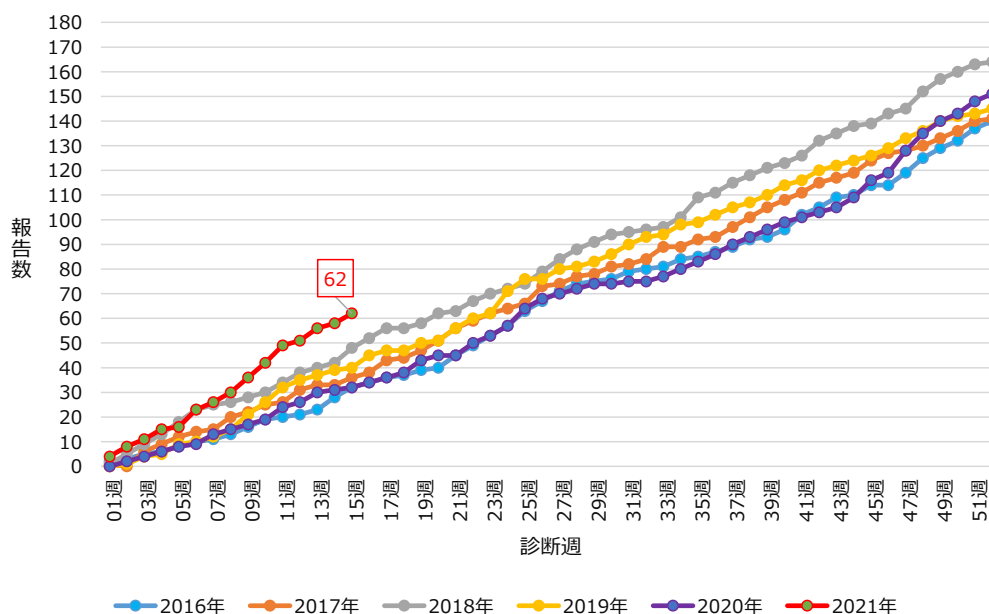


表1：全国および近隣都県の昨年と本年の梅毒報告数

	全国	東京都	埼玉県	神奈川県	千葉県
2020年14週	1382	339	32	43	29
2021年14週	1595	528	59	61	58

\*上記報告数は国立感染症研究所のIDWR速報データ2020年14週、2021年14週より抜粋

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行に伴い、国内ではインフルエンザをはじめとする多くの飛沫感染を感染経路とする感染症の報告数が減少する一方で、梅毒等の性感染症患者の報告数は減少しておらず、COVID-19流行下においても、当該疾患の感染リスクの高い行動が行われている可能性が考えられる。引き続きコンドームの不適切な使用による感染リスクの上昇や、オーラルセックスやアナルセックスでも感染すること、パートナーの検診、妊婦検診や妊娠中の性感染症予防の重要性について、広く啓発をしていく必要がある。

### 《梅毒について》

梅毒は、原因である梅毒トレポネーマに感染すると、約 3 週間の潜伏期を経て、経時的に様々な臨床症状が逐次出現する。その間症状が軽快する時期があり治療開始が遅れることにつながる。梅毒は早期の薬物治療で完治が可能であるが、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置したりすると、長期間の経過で脳や心臓に重大な合併症を起こすことがある。時に無症状になりながら進行するため、治療を途中でやめないこと、また完治しても感染を繰り返すことがあり、再感染の予防が必要である。

#### <梅毒の症状>

- ・早期顕症梅毒 (I 期:感染後約 3 週間):梅毒トレポネーマが進入した局所(主に陰部、口唇部、口腔内、肛門等)にしこりや潰瘍が形成される。鼠径部のリンパ節が腫れることもある。無治療でも数週間で軽快するが、梅毒トレポネーマは体内から消失したわけではない。
- ・早期顕症梅毒 (II 期:感染後数ヶ月):無治療のまま経過すると、梅毒トレポネーマは血行性に全身に移行し、手のひらや足の裏を含む全身に発疹が出現することがある。発疹は治療をしなくても数週間以内に消える場合があるが、再発を繰り返すこともある。ここでも抗菌薬で治療しない限り、梅毒トレポネーマは体内に残る。
- ・晩期顕症梅毒 :さらに無治療のまま経過すると、数年～数十年後の潜伏期間を経て、皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍(ゴム腫)の発生や、心臓、血管や脳などの複数の臓器に病変が出現することがある。
- ・先天梅毒:妊娠している人が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児に感染し、死産、早産、新生児死亡、奇形が起こることがある。早期先天梅毒と無治療の場合に 1 年以上の経過を経て発症する晩期先天梅毒に分けられ、先天梅毒の児の約 60%は出生時無症状といわれているが、多くの症例は 3 か月以内に症状が出現すると言われている。早期先天梅毒では肝脾腫、皮膚病変(水疱疹、斑点状丘疹)、全身性リンパ節腫大、骨軟骨炎、鼻炎、肝機能障害、低血糖、溶血性貧血、血小板減少や中枢神経症状といった症状を認め、晩期先天梅毒は鼻・硬口蓋・各臓器・骨などのゴム腫様潰瘍、Hutchinson 歯(半月状の上顎切歯)、実質性角膜炎や内耳性難聴などの症状を認める。

(国立感染症研究所 先天梅毒の手引き:

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou11/pdf/01-05-11-3-c.pdf>)

#### 《参考・引用》

厚生労働省:梅毒に関する Q&A

[https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html)

国立感染症研究所:梅毒とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/465-syphilis-info.html>

国立感染症研究所:IASR:【特集】梅毒(2020 年)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/syphilis-m-3/syphilis-iasrtpc/9342-479t.html>